

基礎心理学入門・心理学 101

第9回 認知概要・記憶

上村卓也

2016年6月8日

6月15日、6月22日 → 休講

成績評価

前期試験 100%



期末レポート 100%

知覚

知覚：外界を感じる心のはたらき（見る・聞く・・・など）
（例）視覚

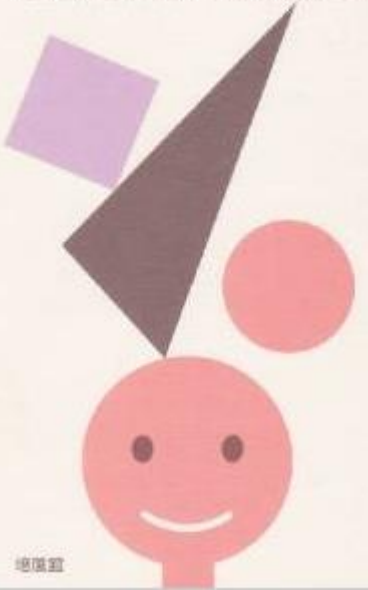


感覚：比較的単純。より低次。] 明確な境界は無い
知覚：比較的複雑。より高次。]
認知：記憶・思考などを用いてさらに高次な情報を]
作り上げるはたらき

三訂版 6章

図説 現代心理学入門

三訂版 金沢孝夫 監修 藤岡彰治・山上陽次 共編



コグニション

…これらを総称して〈認知〉という用語が
…またその個人差を扱うときは、

インテリジェンス

〈知能〉という用語が…

6章のカタカナルビは無視！

用語を覚えるなら日本語か英語を覚える
定訳のある用語にカタカナ語を使わない

レジスタ

〈感覚登録部〉はOKかな？

記憶情報処理の流れ

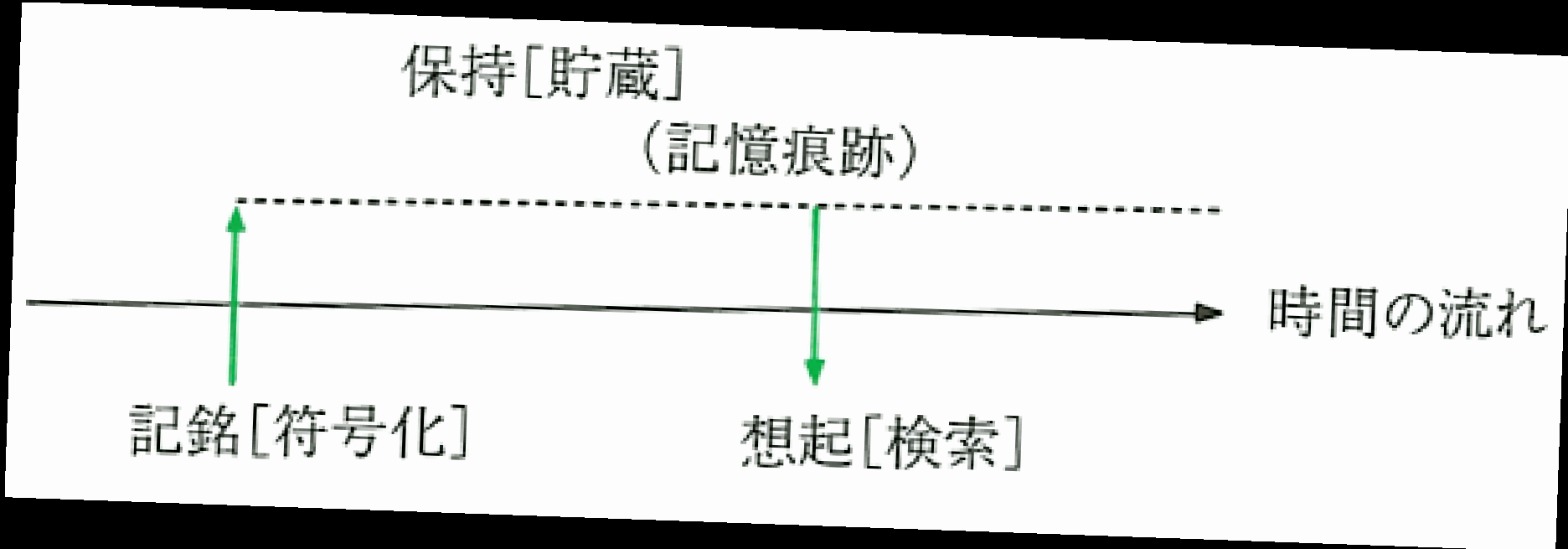


図6-1/5-1

記憶の分類

- 感覚記憶
- 短期記憶
- 長期記憶

{ 宣言記憶
手続き記憶

{ エピソード記憶
意味記憶

感覚記憶

感覚情報をほぼ完全な形で保持

視覚→数百ミリ秒

聴覚→数秒

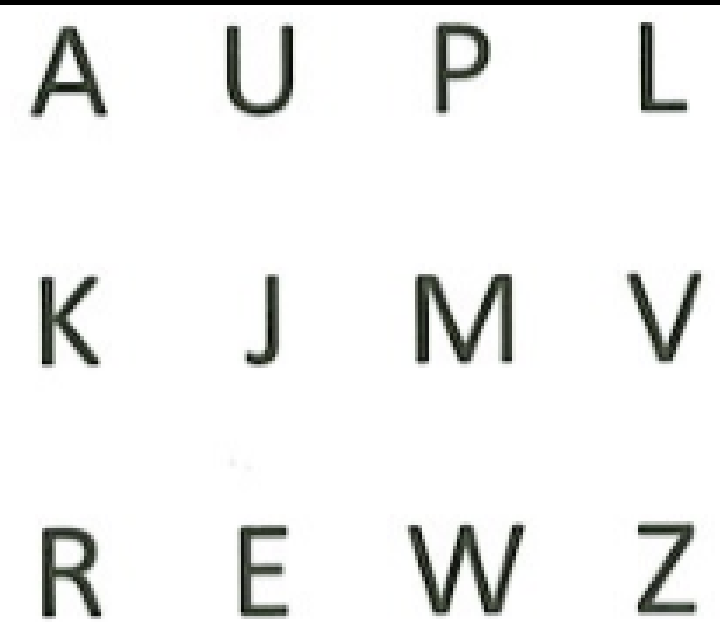


図-5-3

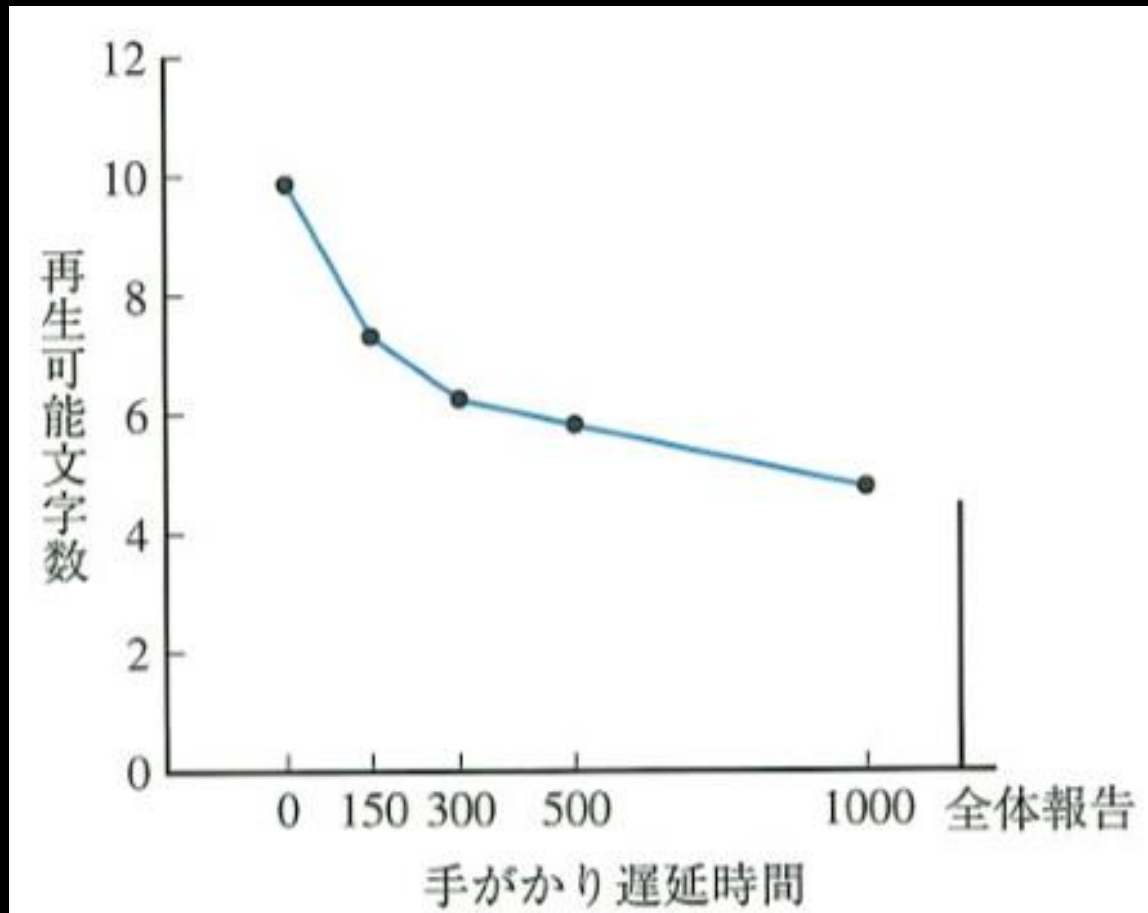


図-5-4

短期記憶

数秒～数十秒

情報の保持＋処理 → 作動記憶(ワーキングメモリ)

頭の中で反復・長期記憶の検索、など

保持できる要素の数→ 7 ± 2 程度

複雑な処理を行う場合→ 4 ± 2 程度

系列位置効果

10-20語を記録→自由な順番で想起

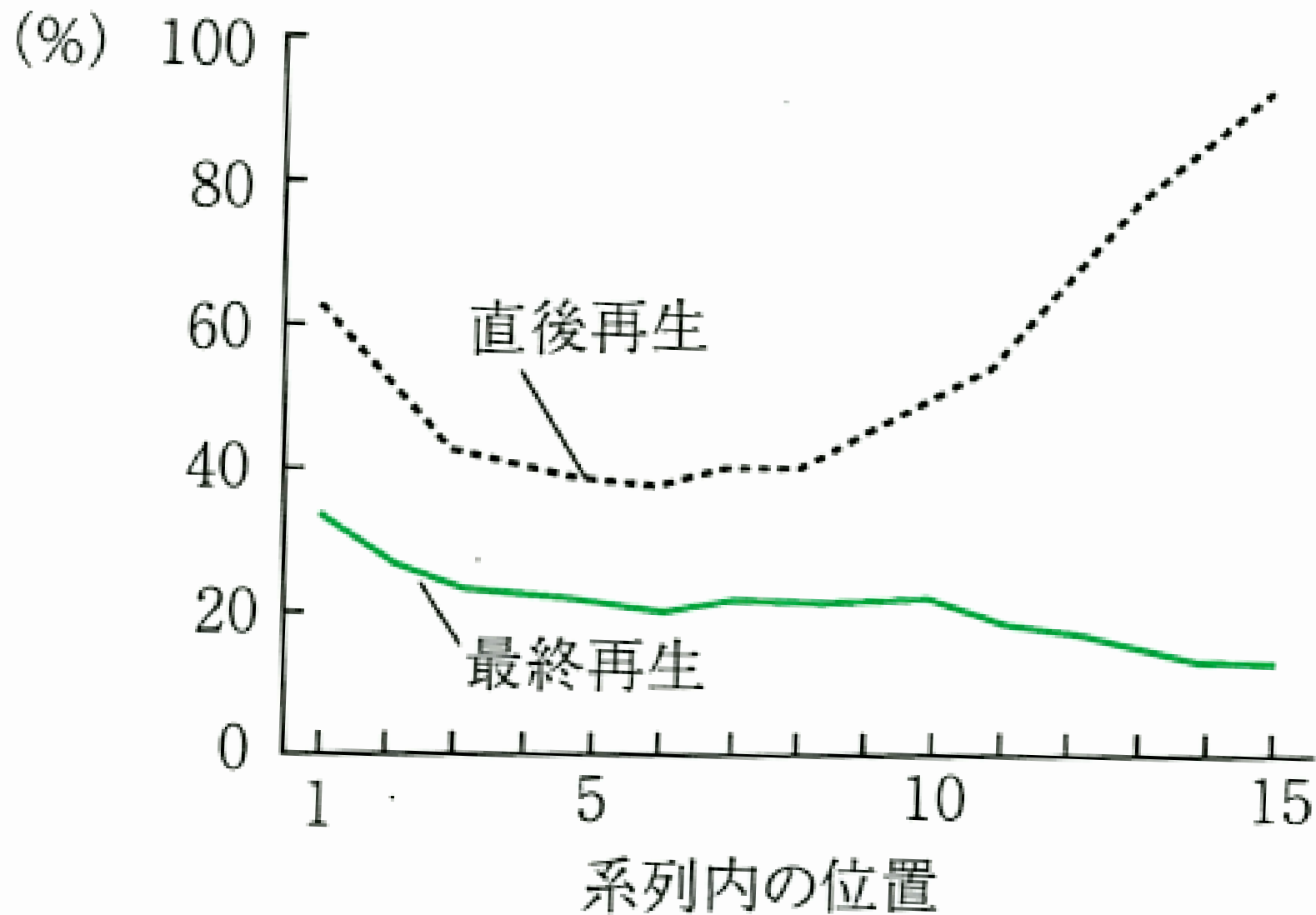


図6-3/5-5

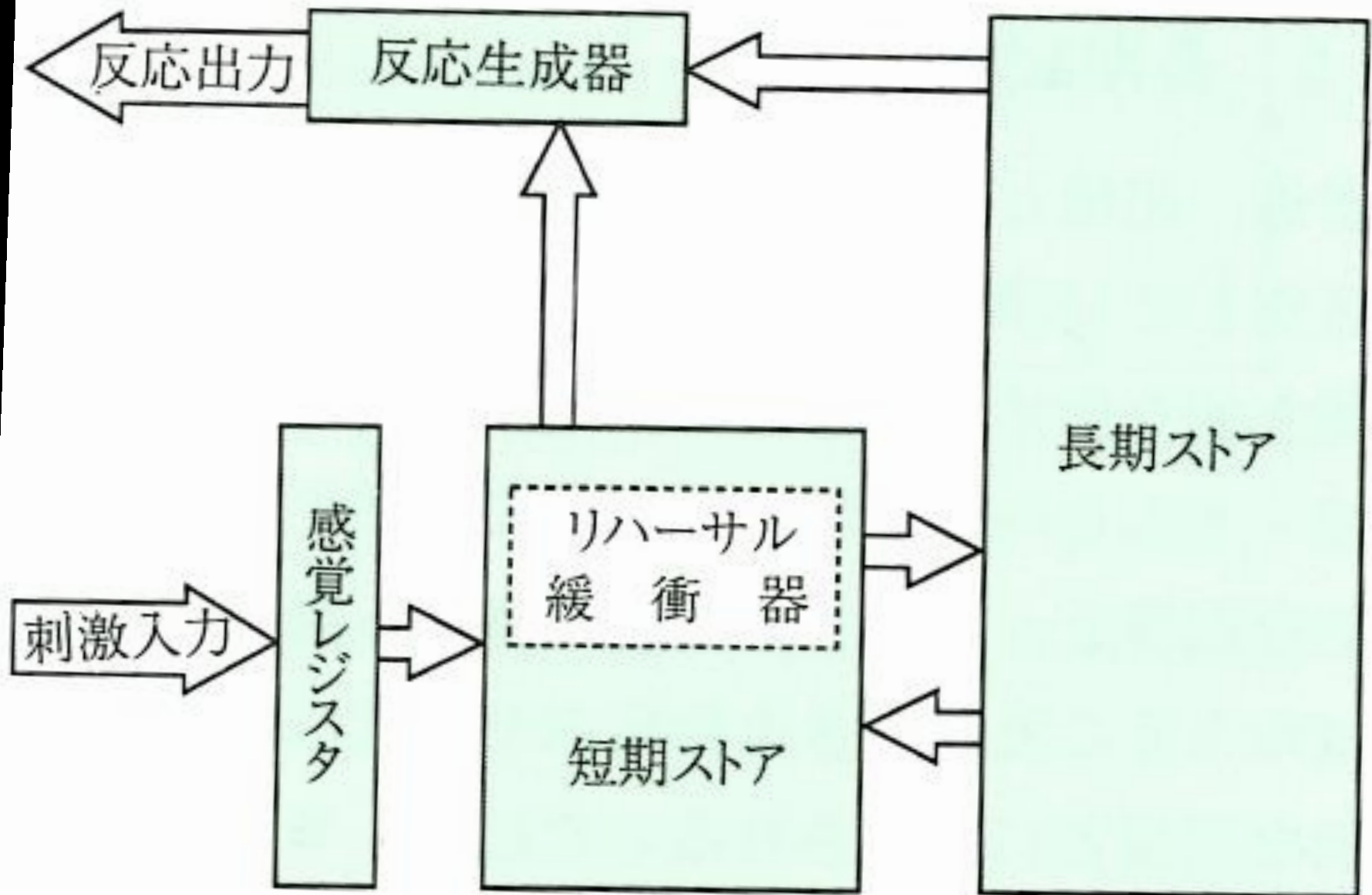
長期記憶

ほぼ永続的

詳しくは後で

保持時間による分類

図6-2/5-2



長期記憶の分類

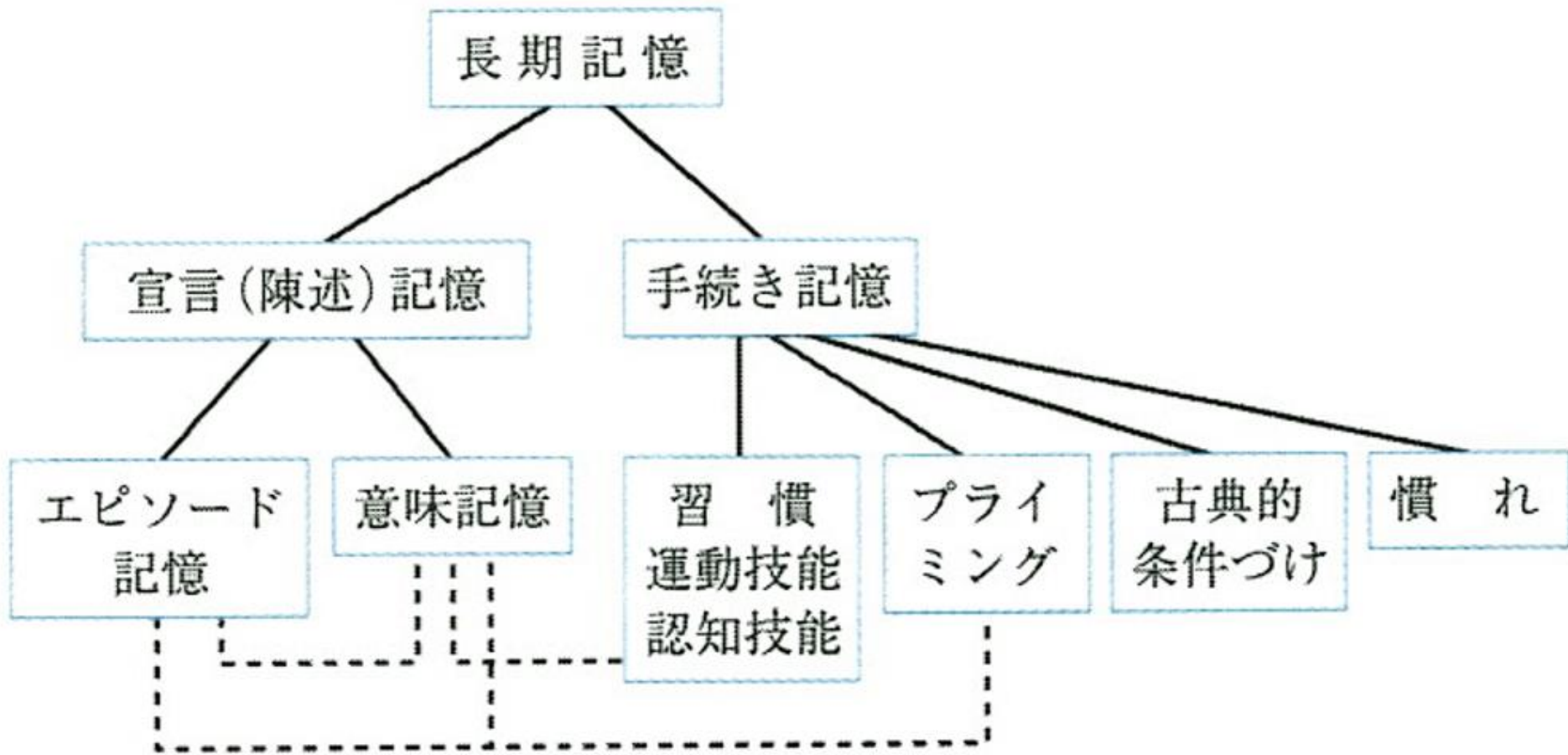


図6-6/5-7

長期記憶の分類

- 宣言記憶

言語化できる

意図的・意識的に想起される

- エピソード記憶
- 意味記憶

- 手続き記憶

言語化されない

意識的な処理をほとんど伴わない

(例) 身体で覚える

例外もあり

エピソード記憶

自身の経験・出来事の記憶

日常生活における具体的経験

いつ・どこで・何が起こったか

意味記憶

事実

単語の意味

抽象的概念同士の関連

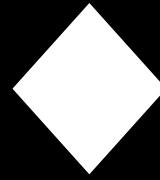
概念を扱うときの規則

三訂版「エピソードや知識の記憶が、知覚でいえば図に相当するとすれば、意味記憶は・・・それを支持するようにはたらく地に相当する」→意味不明！

意味記憶が、エピソードや知識の記憶の記銘・検索・想起を支持するようにはたらく→ OK

知覚における図・地とは関係ない

図と地の知覚



図：形をもって他と区別される領域 → より手前に
地：図を囲む背景の領域 → より明確に 感じられる

図地反転図形

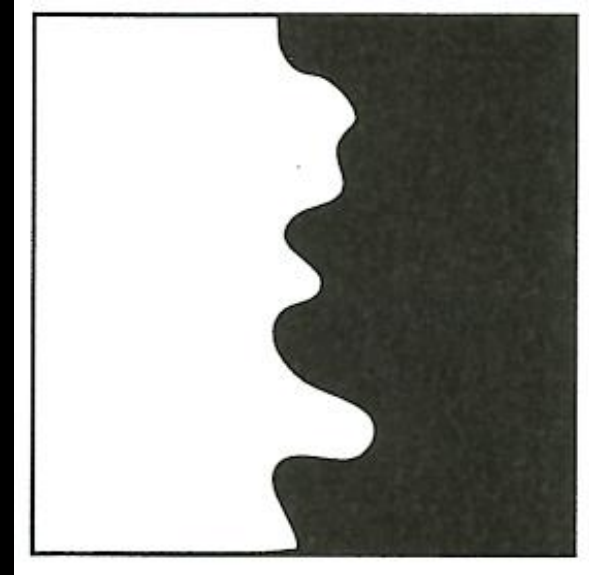
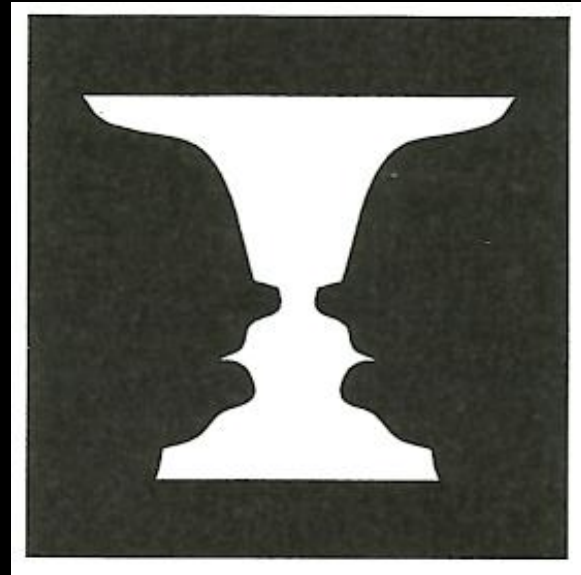


図5-20/6-20

図と地の交替は、意味のない図形でも起こる
→ 図地の分化は知識によるものではない

符号化特殊性

符号化における状況が検索に影響を与える

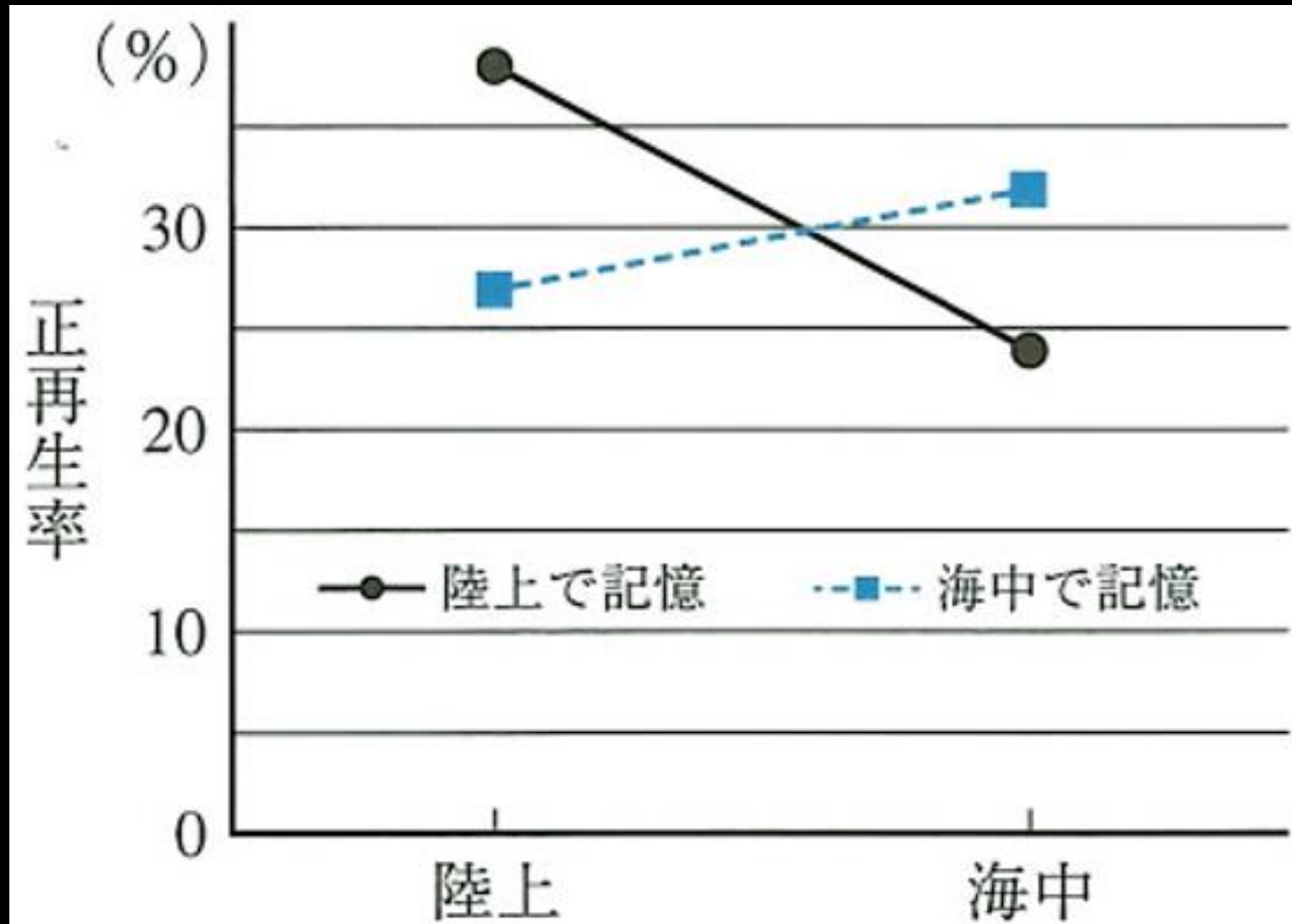


図-/5-12

忘却

減衰説

記銘後、想起することなく放置→記憶痕跡が崩壊・減衰
情報そのものが崩壊・減衰
情報同士の連結が崩壊・減衰

干渉説

ある対象が、別の記憶により、記憶されにくくなる
記銘する直後・直前の経験により、記憶が妨害される

両方とも起こる

忘却

再学習法(節約法)

記銘を2回行う

かかった時間・復唱した回数などを測る

$$\text{節約率 (保持率)} = \frac{\text{1回目の所要時間} - \text{2回目の所要時間}}{\text{1回目の所要時間}}$$

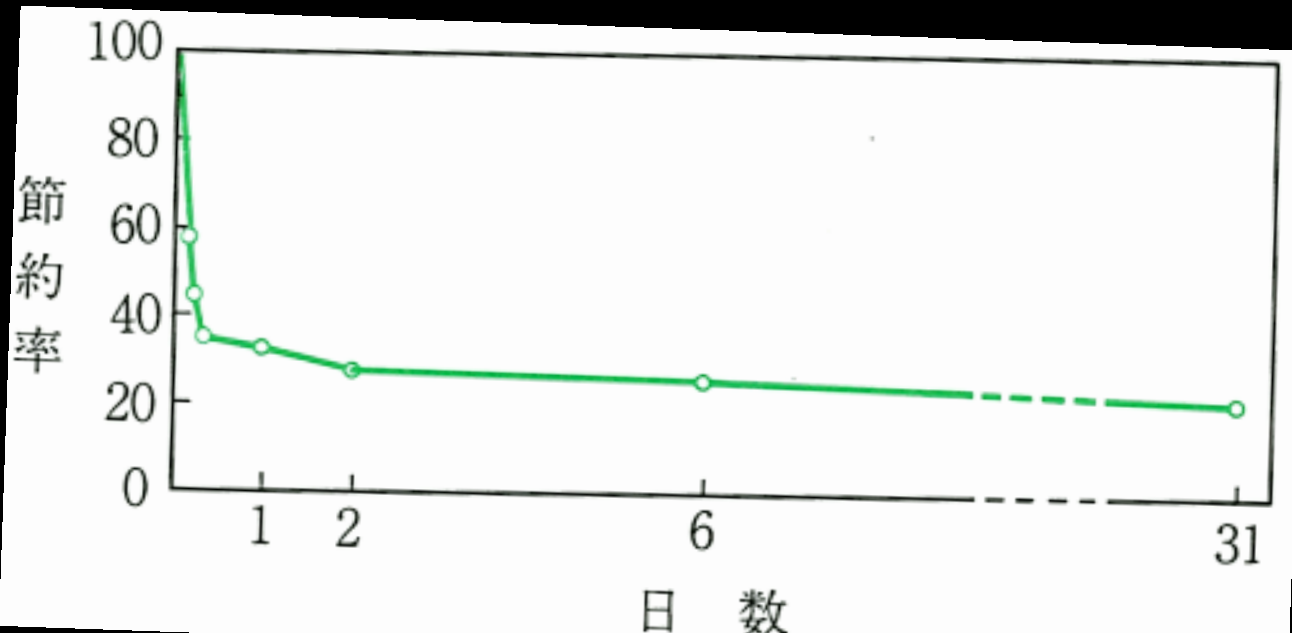


図6-9/5-9

記憶の変形

図6-13/5-15

再生図

命名1

原図

命名2

再生図



← 窓のカーテン



矩形の中の
菱形 →



← 三日月



文字C →



← 眼鏡



アレイ →



← 7



4 →



← 舵

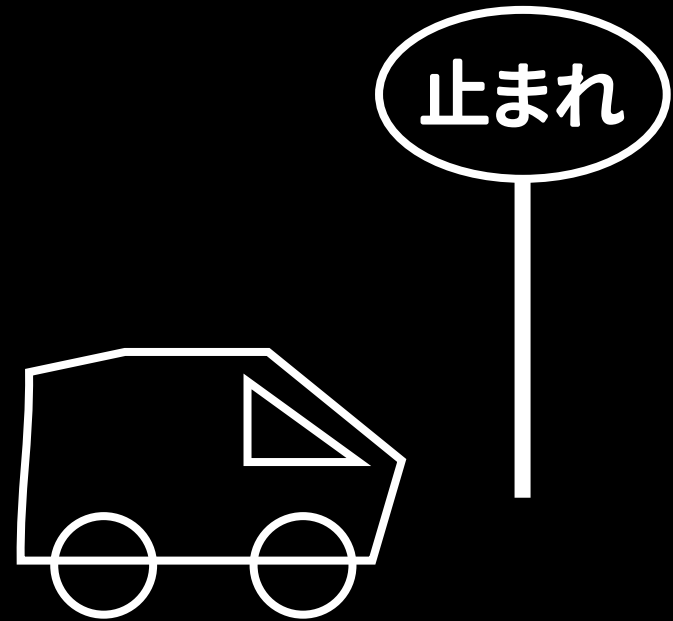
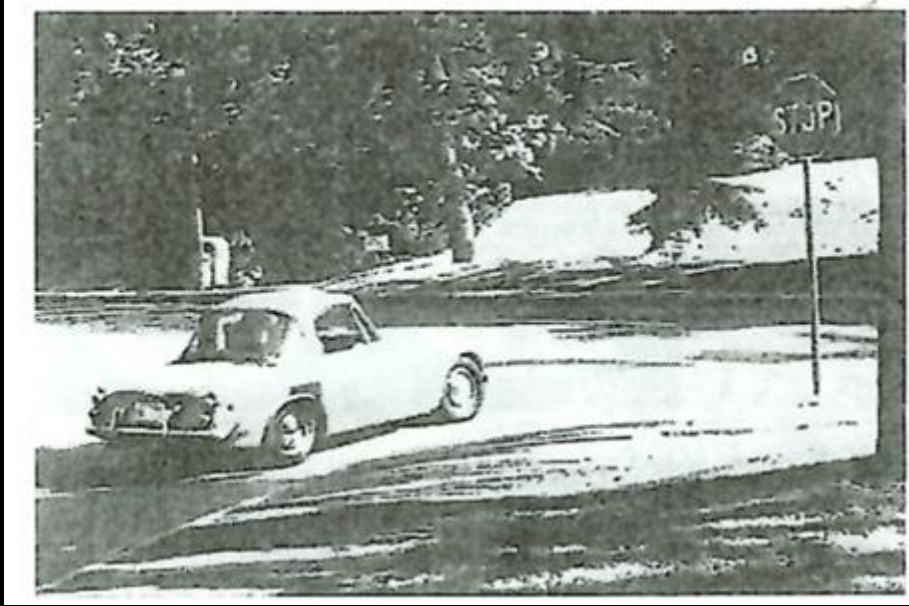


太陽 →



記憶の変形

図-5-16



写真を見る

→「止まれ」の標識はありましたか？

「徐行」の標識はありましたか？

→もう一度写真を見る→見たことがあるかどうか？